

平成24年度武蔵野市財政援助出資団体経営目標評価シート

団体名		公益社団法人武蔵野市シルバー人材センター						
①	指標名	公共民間受託契約金額			目標値	465,600	実績値	397,113
	過去の実績	平成21年度	平成22年度	平成23年度	達成率	85.3%	達成状況	未実施・ 未達成 ・達成
	(単位:)	438,032	429,758	435,408				
	取組内容	<p>※24年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>センターの会員のために、事業拡大の取り組みとして次の事業を実施した。①役職員が事業所等の訪問を実施した。また、全会員につき2回発行の適正就業ニュースにより仕事の情報を提供した。②関係団体の会議やイベントに役員が参加し、また、センター事業の普及啓発と地域交流を兼ねたセンターフェアを実施し、これに合わせセンターチラシの全戸配布を実施した。③会員及び入会希望者に対し、関係団体が開催する研修会の案内を行なった。職群リーダーの研修会を開催した。④各地域のコミセン文化祭に参加し、PR活動を実施した。PRステッカーを作成し全会員に配付した。⑤毎月2回入会説明会を実施した。⑥税務署の協力により税務相談を実施し、今年からゆうちょ銀行の協力により年金相談を実施した。⑦7月と12月を安全強化月間とし、就業先の巡回や自転車無料点検など安全就業の推進に努めた。会員の万一の事故対策として緊急連絡カードを作成し全会員に配布した。⑧会員が雑巾を縫って公立小学校へ寄贈した。</p>						
	一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>目標の契約金額は達成できなかったが、事業計画に掲げた事業は概ね実施することができた。本年度は役員が手分けして関係団体の会議に出席しPR活動をおこない、各地域のコミセン文化祭においても地区理事が中心となってPR活動を実施した。社会奉仕活動としては、昨年に引き続き会員が縫った雑巾を公立小学校へ寄贈したが、次年度も社会奉仕活動を検討していく。</p>						
二次評価	<p>まずは、就業開拓と会員拡大が最重要課題であるとの認識を法人内で徹底し、取組みを行うこと。社会奉仕活動については、市の出資団体にふさわしい取組みであり、評価する。今後もセンター独自の活動の継続的な実施を検討されたい。</p>							
②	指標名	損益計算書 事業収入 自主事業収入			目標値	267,429	実績値	237,950
	過去の実績	平成21年度	平成22年度	平成23年度	達成率	89.0%	達成状況	未実施・ 未達成 ・達成
	(単位:)	253,198	245,217	249,887				
	取組内容	<p>※24年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>自主財源を高めるには、事業実績を伸ばし、事務費収入と会員増加による会費収入の増加に努めた。実績の拡大には、役員による事業所訪問や普及宣伝活動を行った。また、会長をはじめ役員等が関係団体の会議やイベントに参加し、センターのPRに努めた。会員の増加を目指し毎月2回入会説明会を実施し、支出面でも不急の支出を抑え、財源確保に努めた。</p>						
	一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>補助金不足分を事務費収入で補い、支出を抑えたが、マイナス決算となった。今後も新規就業開拓による契約額の増加と会員増加による会費増収に努める。</p>						
二次評価	<p>「収支相償」が公益社団法人の原則であるが、そのことが事業実績の抑制につながることを無いう、拡大基調で収支バランス確保に向け努力すること。</p>							
③	指標名	事務局業務への会員の活用			目標値	5,120	実績値	5,036
	過去の実績	平成21年度	平成22年度	平成23年度	達成率	98.4%	達成状況	未実施・ 未達成 ・達成
	(単位:)	5,120	4,799	5,036				
	取組内容	<p>※24年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>前年度に引き続き、会員を臨時職員として雇い入れ、事務の効率化と人件費抑制に努めた。</p>						
	一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>会員の経歴等を参考に、会員を事務局の臨時職員として雇入れた。主な業務内容は、運搬業務、建物清掃、請求金額計算、OA入力などである。ほかに、センターの普及啓発活動としてセンターフェアのスタッフとしての業務また、理事会や諸会議の資料帳合い、準備等</p>						
二次評価	<p>事務局業務への会員の活用を進める一方で、入会会員に対し、センター理念を浸透させる努力も行うこと。</p>							